

農村伝道神学校学報

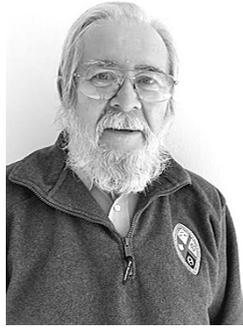
学校法人鶴川学院
農村伝道神学校
発行人：ロバート・ウイットマー

農伝と繋がりのある皆さんに

感謝を込めて

農村伝道神学校校長

ロバート・ウイットマー



私はカナダ合同教会の宣教師として今年で五三年になります。その間四九年は北海道で働いていました。一九七五年から北海道名寄市にある道北センターという農村センターで働いている間、農伝から多くの学生を實習で迎え、卒業生が働き、また農伝の教師もセンタープログラムの協力をしてくれました。カナダ合同教会も道北センターも農村伝道神学校との深い関係があつたことでした。二〇一八年に校長になりました。私にとって新しい

世界でしたから神学校の教師事務職員学生また多くの人々の助けと協力を得て、たくさんの事を学ぶことが出来、また北海道とセンターでの働きとカナダで経験したことを分かち合うことが出来ました。本当に皆さんに心から感謝します。不思議にも神学校の七〇周年の年に私は七〇歳の誕生日を迎えました。校長ではなくなりますがこれからも共に生かされることを願っています。

私は農伝で英会話と農村伝道論IIを教え、説教演習の協力をし、そして、その同じ学校法人であるシオン幼稚園での聖書研究と礼拝の協力もしました。英会話の授業の中でカナダを含めて他の国について学ぶことも出来ましたし、たくさんさんの歌も歌い、そして日本の言葉を英語でどのように表現したらいいかと言う勉強も出来ました。農村伝道論の勉強の中で日本の地方教会の状況について学び、三愛精神(神を愛し、人を愛し、土を愛する)は北海道だけではなく日本中でどのように生かされているかとカナダ合同教会の農業と地方の教会について学ぶことも出来ました。私の校長としての任期は三年でしたが、一年目と二年目にはカナダ合同教会の仲間を迎えて数多くの協力をさせていただきました。一年目はアフリカのモザンビークで宣教師として働いた友だちがモザンビークの農村教会の働きと課題について、またカナダの農村教会についての話もしてくれました。二年目はレズビアンカップルでしたのでアフアミング・ミニストリーの話も出ましたし、またカナダ合同教会の信徒牧師、地方の教会の状況と課題、先住民の話も分かち合ってくれました。彼らは英会話にも農村伝道論にも参加してくださって、と

でも豊かな時だったと思いません。最初の二年間このようなことが出来たので、三年目に「カナダへの交流の旅」を計画し、私が卒業した都会にある神学校と自然に囲まれているカナダ合同教会の先住民の神学校を訪ねる予定を立てましたが、コロナウイルスで出来なかつたので私は一年伸ばすことにしましたが、今年も出来ませんでした。学生が寿地区センターの働きに充分に参加が出来なくて、またカナダと台湾との交流が出来なかつたことは残念でしたが、北海道のアイヌ民族情報センター、主事三浦忠雄さんの集中講義、北海教区で働いている台湾ブヌン民族のデイヴァン・スクールマン宣教師の特別授業、北海道余市にある「えこふあーむ」の牧野時夫さんを農伝の農村伝道シンポジウムの講師として迎えることが出来たこと、また教師と学生が一緒にアジア学院を訪ねて、二泊三日学び、つながることが出来たことは私にとって大きな喜びでした。私は三月末で校長を辞して北海道とカナダで過ごしたいと思っていますが、校長ではなくてもカナダへの交流の旅の可能性があれば協力をしたいと考えています。

多くの方と共に歩む機会が与えられて本当に感謝しています。

ます。新年度の神学校と校長の平良愛香さんの働きのために豊かに祝福されますようにお祈りしています。

最後に、皆さんにもう一度感謝して、またいつか、どこかで会えることを願って心からこのお別れの言葉を一人一人に送ります。

「アイルランドの
おわかれの言葉より」

あなたの前に
いつも道が開かれますように
風が
あなたの背中を後押ししてく
れますように
太陽が
あなたの顔を暖かく照らしま
すように
雨が
あなたの行く所
いつも優しく降り注ぎますよ
うに
そして
私たちが再び会う日まで
神様が
あなたをその手のひらで包ん
でくれますように



農伝シンポジウム二〇二二年一月二〇日

吉川拓実

寒さ極まる中、二〇二二年一月二〇日に開催された農伝シンポジウム。今回のゲストは有機農園「えこふあーむ」を北海道余市で経営する牧野時夫さん（日本聖公会々員）です。彼は、大学入学後まもなく、



畑の牧野時夫さん

宮沢賢治の『農民芸術概論』と出合い感激し、賢治が農民となった三〇歳までに自分が農民になることを決意しました。そして三〇歳の春、六年間務めたサツポロワイン（株）と契約していた農家が離農することになり、農地を譲り受けました。そこに有機農園「えこふあーむ」を設立。三愛精神（「神を愛し 人を愛し 土を愛す」）のもとに、大量生産・大量消費とは正反対の等身大の農業を心掛けています。

牧野さんは、三歳からヴァイオリン・ピアノ・聴音を始めており、一九九四年から北海道農民管弦楽団を設立します。この楽団は、「畝で大地を耕し、音楽で心を耕す」をモットーに、長い農閑期の道内在住者農家・農業関係者（約六〇名）を中心にしたグループです。農村地域においての公演を積極的に行うとともに、都市住民にも農村と農業につ

いての理解を深めてもらうことを目的としてコンサートを開催しています。過去には、道内はもろろんのこと、岩手県の花巻市、陸前高田市（高田小学校）やデンマークにも赴いています。

このデンマークですが、かつての日本と大いに関係しております。内村鑑三『デンマークの話』（一九一一年）や、東大の農業経済学者であった那須皓が翻訳したホルマン『国民高等学校と農村文明』（一九一三年）などが出版され、デンマークブームが起こり全国各地に国民高等学校が設立されたのです。

さて、牧野さんは宮沢賢治が創設した「羅須地人協会（いわゆる農民芸術学校）」の理念に基づいて、農民オーケストラを蘇らせようと、「余市農芸学舎」を設立しようとしています（現在はNPO法人を準備中）。学校を作ることが最終

目的ではなく、人間が人間らしく、抑圧のない平和で自由に暮らせる社会をつくることこそが、この学校を作る目的であるそうです。

牧野さんは芸術や宗教が、本来の人間にとつてなくてはならないものであると語り、そこに現代人の文化を取り戻そうという気高き決意を感じました。殊に、食堂での生演奏からは、そういう静かで、確かな決意を感じました。このシンポジウムが終わると、すぐに余市へ帰って行かれましたが、一度は余市を訪れたいですね。



平良さんと牧野さんのミニコンサート

アドベント礼拝報告

平良愛香

二〇二二年十二月三日（金）夕方、ちようど日が暮れ始めたころ、待降節（アドベント）礼拝が行われました。昨年に引き続き、「ブルークリスマス」がテーマでした。クリスマスを迎えるこの季節、喜びだけではなく、むしろ喜びの陰に隠されている「悲しみ」に目

を向ける礼拝です。チャペルの中央には有刺鉄線で作られたリースが置かれ、一人一人が涙（前もって礼拝委員が作成したオーナメント）と一緒にろうそくに火を灯していく、という礼拝でした。

賛美と賛美の間に淡々と語られるショートメッセージは、現在痛みや不安の中にいる人々を思い出し、心を合わせることで希望につなげていく、というものでした。

またチャペルの前方には誰も座らないための椅子が数人分設けられています。既にこの世を去った人々たちのための椅子でした。様々な思いを持ちつつ、あるいは残して、この世を去った人々たちが、今も

共にあることを覚えるの礼拝ということでした。暗くそしてやや寒いチャペルが、しかしろうそくの光のせいとか、とても暖かくも感じ、生と死を超えて私たちは希望によって結ばれているということを感じ、わっと実感する一時間でした。準備してくださった学生担当者のおかげで、ありがとうございました。

卒論発表会報告

平良愛香

二月九日（水）午後、神学校のAB教室にて卒論発表会

が開催されました。この春卒業する四人の神学生が卒論の内容を発表したのですが、それぞれに与えられた三十分が足りなくなるほど、四人の熱い語りを聞くことができませんでした。以下、それぞれの卒論のタイトルと簡単な要約（平良による）をご紹介します。

・斎藤織恵 「John after 2000」ヨハネによる福音書をもとにした、現代の若者のストーリーを小説の形で書き下してみたいもの。仲間たちはあらゆる権力にしばられずサウンドデモを繰り広げるが、やがてその中心人物である主人公は扇動者として社会から反感を買うようになる。そして…。

・清野量 「谷中村入村後の田中正造の霊性・信仰・神学」明治期の足尾銅山鉱毒事件への取り組みで知られる田中正造の、信仰者としての姿に焦点を当てた論文。信仰に影響を与えた人物として木下尚江、新井奥彦、岡田虎二郎、谷中残留民たちとの関わりを紹介。また日記の最後に書きかけられていた言葉「何とて我を」が何を意味するのか、という考察。

・鳥潟紘一 「マタイによる福音書の積義―義を中心にするマタイによる福音書がどのよな人々のために書かれたか」ということを考察しながら、



池明観先生逝く

池明観(チ・ミヨグアン)先生が農村伝道神学校で教えられたのは、一九七二年〜一九九二年でした。主に哲学を教えら

きで支えてくださいました。若いときならいざ知らず西大井から鶴川へ、そしてバス、野津田の山を登ってくるだけでも重労働ですのに、淡々と働いてくださったのです。私たちは事務室に大澤さんを見るとホッとしました。私たちはすっかり甘えてしまいました。特に東京都とか町田市などの行政とのやりとりは、大澤錦一さんでなければできないことでした。学校法人として鶴川学院の諸規則も整えて貰いました。特筆すべきことは、国安先生の高額の遺産を、ご遺族が早く農村伝道神学校に残してくださいました。大澤さんの働きによりました。神学校の働きを退かれる日、国安先生の遺産を神学校に献げる手続きは銀行と完了しているので安心するように、伝えてくださったのです。あの時の私の感謝の思いは到底簡単に言葉になりません。

2022 年度入学案内

◆受験資格

- (1) 日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後1年以上(洗礼式を行わない教派については、それに準ずる)の教会生活をしている者。
(2) 所属教会が推薦し(可能であれば)、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

◆修業年限

- 神学基礎コース：2年間(2年間で修了することも可)。基礎コース修了後、神学専門コースに進むことができる。
○神学専門教職者養成コース：2年間
○神学専門信徒宣教師養成コース：1年間または2年間

◆学費

- 入学金 60,000円(入学時のみ)
授業料 240,000円(年額)
設備費 30,000円(入学時のみ)

◆受験手続

- 次の書類を期日までに郵送または持参する。
(1) 入学願書(本校指定の書式)
(2) 履歴書(本校指定の書式)
(3) 教会(牧師または役員会)の推薦書(可能であれば)
(4) 最終学校卒業証明書(または卒業見込み証明書)
(5) 受験料 10,000円(振り込み)

◆入学願書受付

- 第1回 2022年10月18日(火)~11月4日(金)
第2回 2023年1月17日(火)~2月3日(金)

◆入学試験日時

- 第1回 2022年11月15日(火)午前9時~午後3時
第2回 2023年2月14日(火)午前9時~午後3時

◆会場 本校教室

◆入学試験科目 (1) 小論文 (2) 旧約聖書・新約聖書 (3) 面接

○入学願書一式、過去の試験問題集は、本校事務室まで請求ください(無料)。

農村伝道神学校

〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024

Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711

Eメール: noden@pony.ocn.ne.jp

ホームページ: https://noden.ac.jp/

振替番号

農村伝道神学校 00160-6-18485

農村伝道神学校後援会 00120-6-24418

れ、三木清やハンナ・アーレントについて講義をされました。特にハンナ・アーレントの講義は、先生が韓国の軍事政権から逃れて日本にいることと重なって、大変力のこもった授業だったことが記憶にあります。池先生は、農伝で教えられている間、「T・K生」の匿名で雑誌「世界」に投稿し続け、光州事件そして一九八七民主化宣言まで闘争を支援続けられました。帰国後も金大中元大統領の側近として活躍をされました。このように韓国の民主化に寄与された先生に一時期でも教えられたことを誇りに思います。(報告 瀬戸英治)

同窓生等個人消息

任地が変わった等で掲載可の連絡の取れた方を記載させていただきます。移動など変更のある同窓生の方がおられましたら、神学校事務までご連絡いただければ感謝です。

〔逝去〕

- 一 大澤錦一(二〇〇三年〜二〇〇八年、農伝事務長補佐) 二月二八日召天 八六歳
二 向井恒夫(神学科第九回卒) 一月二三日召天 九七歳
三 柴田晴代(保育科第十五回卒) 一月二八日召天

事務室からのお知らせ

農村伝道神学校の事務室を長年支えてくださった二人の事務職員がこの三月末をもって退職することになりました。お一人は松田陽子さん、二〇〇三年か

学事報告

- ◇十二月三日(金) 降誕節礼拝
◇十二月七日〜一〇日 集中講義「世界キリスト教史」... 大倉一郎
◇十二月一三日〜一八日 特

お知らせ

- ★禅キリスト教入門(佐藤研) 三月二十八日(月) 七時〜四月二日(土) 午後十二時
★四月六日(水) 第七四回入学式
★四月七日(木) オリエンテーション
始業講演(有住航)
★四月十二日(火) 前期授業開始

ら、主に会計と総務の仕事を担当していただきました。また高柳校長が事務長を兼務した以降、事務主任として事務室を引っ張ってくれました。もう一人は木津さらさん、二〇一六年から、主に教務と図書

- 別講義「接心」... 佐藤研
◇一月二十日(木) 農村伝道シンポジウム「有機農園ここふあーむと余市農芸学舎」... 牧野時夫
◇二月一日〜四日 集中講義「日本宗教史」... 戒能信生
◇二月九日(水) 卒業論文発表会
◇二月十五日(火) 第二回入学試験
◇三月二日(水) 第七十二回卒業式